



高橋余一の「生活絵巻」



上の絵に書かれた文章

耕地整理

明治四十二年十二月から

四十三年五月にかけて

進められた大工事

何しろもっぱら人力により

百丁歩近くの

耕地の八〇%を整理する

仕事は大したものだ

人夫賃

普通三十五銭

上人夫四十三銭

うちのおやぢが

最下級のかんとくで

ボロかんのあだ名あり

中子供達も出たものだ

30 耕地整理

明治の末、古井村で大規模な耕地整理が行われました。耕地整理とは、不規則に区画された田や畑のあぜや用水路を真っ直ぐにし、農作業や収穫時の運搬の効率を図ることを目的に行われました。この工事に当たったのは、そこに住む地域の人たちでした。県や組合からの補助で日当があり、現金収入を得ることができました。

工事のほとんどが人力でした。生活絵巻には、わらでできたモッコで土運びをする様子が描かれています。股引にふんごみという足袋を裏返して縫い目が外側になるようなものを履き、さらにわらじを履きました。股引とふんごみはもとの部分がわからなくなるほど、何度も継ぎ当てをしました。また山から採ってきた落ち葉や刈った芝草を土に混ぜ込み土づくりも行いました。累計でおよそ一万人が働き、四十三町歩ほど（約42ヘクタール）を半年余りで完成させました。

※生活絵巻では百町歩となっていますが、美濃加茂市史では、約四十三町歩と記述されています